



Ⅷ 大震災に係る調査まとめ（高等学校長協会）

東日本大震災に係る各県立高等学校の対応調査用紙

千葉県高等学校長協会
平成23年7月実施

質問1 学校名等を記載

回答数：県立125校，市立7校

質問2 3月11日当日学校はどのような日程でしたか。また，震災時何人の生徒が学校にいましたか。（※全日制と定時制は，分けて回答）

・大半の学校は，考査中もしくは考査後の日程だと思いますが，

① どのくらいの生徒が残留していたか。

※ほとんどの学校が，「考査期間中」であり，放課済みであった。

	0人	～10人	～50人	～100人	～150人	～200人	200人超
県立	20	31	49	16	6	1	2
市立			2	1		2	2
小計	20	31	51	17	6	3	4
県定通	16		1				
市定	1						
合計	37	31	52	17	6	3	4

② 最大何人くらいの生徒がいたか。

⇒ 幕張総合 897名

③ 学校に泊った生徒はいたか。

⇒ 県立16校，市立4校 職員の車で送った（多数）

④ 家庭への連絡方法はどうかであったか。

⇒ 生徒の携帯等

⑤ その他 「入学許可候補者説明会」のため，中学生と保護者がいた学校もあった。

質問3 震災時、校長はどこにいてどういう対応（初動30分位まで）を行いましたか。

- ・ほぼ残留生徒の確認と被害個所の調査だと思われませんが、
 - ① 校長不在の所はどのくらいあったか。
⇒ 不在62名。（内訳：出張54名。年休等6名。その他2名）
 - ② 修学旅行等、特別な行事等の学校は。
⇒ 旅行見送り1名

質問4 その後、当日学校はどのような状態となりましたか。またどういう対応を行いましたか。

- ・様々な状態だと思われませんが、
 - ① 避難所として対応した学校はどのくらいあったか。
⇒ 県8校，市1校（銚子）
 - ② そのうち、何日間か避難所として対応した学校があったか。
⇒ なし
 - ③ そのうち、帰宅困難者への対応をした学校はどのくらいあったか。
⇒ 3校

質問5 当日どのような問題（課題）がありましたか。

- ・電話が繋がらない，電車が不通であった等々課題は多いと思われませんが、
 - ① 目立った課題があったらお願いします。
⇒ ・備蓄品，照明，暖房等がなかった。
・断水のため，トイレ水道が使えない。
・避難所としての機能が不十分なため，また市担当者と連絡とれず，避難者がパニックになった。
・通信手段が途絶え，家庭と連絡がつかなかった。
・交通渋滞により，生徒の送迎に苦労した。
・交通機関のマヒ（バスは動いていた。）
・県教委の指示が不明確だった。
・マニュアルが機能しなかった。

質問6 学校や生徒の被害の程度はどのようでしたか。（複数選択可，番号と被害状況を記入）

- ① 教育活動に支障が出るほどの被害があった学校は。
⇒ 液状化 浦安南他県12校，市1校（市立稲毛）
- ② 生徒に死傷者が出た学校はどのくらいあった。
⇒ なし。
※ 津波で自宅が流された生徒6名（旭農）

質問7 震災後から現在まで、何か震災に関わることで新しく取り組んだことはありますか。

① 「防災マニュアルの見直し」は大半の学校がしたと思われていますがどのくらいであったか。

⇒ 県42校，市1校

② 具体例：

⇒ ・市立松戸高校合宿所が避難所となり，福島県の被災者を5月まで受け入れた。

- ・避難経路の確認
- ・171（災害用伝言ダイヤル）の周知
- ・ホームページに緊急連絡コーナーを設置
- ・食糧の備蓄
- ・メール配信システムの導入
- ・節電
- ・定時制授業（勤務）について計画
- ・避難所への慰問（食糧，吹奏楽演奏）
- ・募金活動

質問8 その他，震災時の学校の取組に対し何か提言（アドバイス）がありますか。

① 特に顕著なものを上げてください。

⇒ ・備蓄品（食糧，毛布）の準備

- ・市町村等自治体との連携，協議
- ・生徒の安全確保
- ・帰宅困難者の受入れ体制は，県で対応する
- ・マニュアルの整備
- ・ラジオ，ライト，ハンドマイク，発電機，石油ストーブの備え付け。
- ・連絡手段の構築
- ・防災教育の推進
- ・県は，命令系統の整理を行って欲しい。